

# 開催報告：第26回地質調査総合センターシンポジウム 富士山 5,000 m の科学 — 駿河湾北部の地質と自然を探る —

藤原 治<sup>1)</sup>・宮地良典<sup>2)</sup>・阪口圭一<sup>2)</sup>・佐藤善輝<sup>3)</sup>

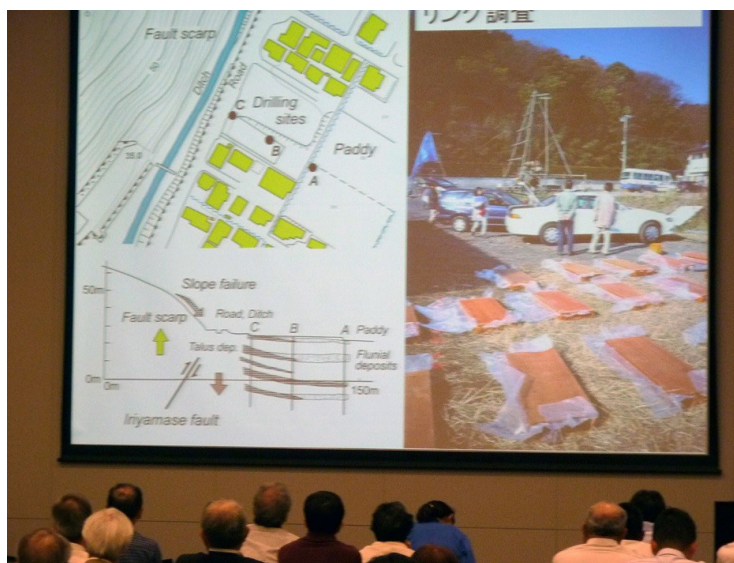
2017年10月10日に、表記のシンポジウムを東京都千代田区のイイノホールで開催した。内容は、地質調査総合センター（GSJ）が2016年度に出版・公表した、海陸シームレス地質情報集「駿河湾北部沿岸域」、特殊地質図「富士火山地質図（第2版）」、水文環境図「富士山」を基に、その調査研究の過程で分かったことや、あるいは新たな課題として浮上した問題について7件の口頭発表と、関連する研究も含めて合計6件のポスター発表からなる（第1図、第2図）。参加者は全体で102名（うち、GSJ関係者、講演者が合計27名）であった。本シンポジウムはGSJ創設135周年記念事業の一環である。

このテーマでのシンポジウムは、9月21日の静岡市での開催に続いて2回目である。最新の成果を出来るだけ多くの市民の皆さんに直接お話をさせていただくため、実際に調査を行った静岡県に続いて東京でも開催した。活断層や火山、あるいは地下水の研究などの知的基盤整備は

GSJの主要ミッションの一つであるが、基礎的な情報であるために産業や社会生活に「橋渡し」するまでの道のりが長い。本シンポジウムではこれを少しでも縮めることを目指した。平日にもかかわらず、都内だけでなく愛知県、静岡県、山梨県などからの参加者もあり、このテーマへの興味の高さがうかがわれた。

本シンポジウムでは、「知っているようで知らない、富士山周辺の地質の話」を主テーマにして、以下の観点から講演を行った。

1. 海から陸へ続くプレート境界の複雑な地形と地質構造を紹介します。
2. 富士川河口断層帯って、何でしょう？
3. 駿河湾の海底はどうなっている？氷河期の地形などが隠れています。
4. 富士山の成り立ち、火山としての本当の姿を知っていますか？



第1図 講演の様子。

1) 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター  
2) 産総研 地質調査総合センター研究戦略部  
3) 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門

キーワード：GSJシンポジウム、富士山、駿河湾、東京、開催報告



第2図 ポスター展示の様子。

5. 富士山周辺の豊富な地下水はどこから来るのでしょうか？

6. 「想像力を高める」とはどういう意味でしょう？

ここから「地質情報の使い方、つきあい方が分かるはず」というメッセージを伝えることを試みた。なお、本シンポジウムの副題がなぜ「5,000 m」なのかは、前報(藤原ほか, 2017)をご覧ください。

口頭発表では以下の講演があった。

1. 海陸シームレス地質情報集「駿河湾北部沿岸域」の成果と急務の課題(尾崎正紀:地質情報研究部門)
2. 静岡県富士川河口域における二次元反射法地震探査(横田俊之:地圏資源環境研究部門)
3. 駿河湾海底下に眠る沿岸部の地形変動史,活断層(佐藤智之:地質情報研究部門)
4. 陸上に延びる駿河湾の地質構造—富士川河口断層帯周辺の地形と地質—(山崎晴雄:首都大学東京名誉教授)
5. 富士火山地質図から見た噴火の特性(山元孝広:活断層・火山研究部門)
6. 富士山の地下水を探る(小野昌彦・井川怜欧・町田功・丸井敦尚:地圏資源環境研究部門)
7. 「想像力の欠如」に陥らない防災を(岩田孝仁:静岡大学 防災総合センター長)

受付協では、床貼りで「富士火山地質図(第2版)」(1/5万の原図を200%拡大)と、海陸シームレス地質情報集「駿河湾北部沿岸域」のうち「富士川河口断層帯及び周辺地域地質編纂図」(1/5万の原図を300%拡大)を展示した。また、富士山の地質や地下水流動などについて、2種類の3Dプロジェクションマッピングを展示した。

総合討論ではGSJの調査研究成果をどういう形で発信してほしいか、またどうしたら使いやすい(使いたい)と思うかをテーマに会場から意見を募った。これには富士山や断層がテーマであっても「防災に偏り過ぎない内容のほうが良い」、「もっと地域の地質や地形にワクワク感が持てる内容のほうが良い」といった意見があった。

GSJ関係者を除く参加者のうち67名からアンケートへ回答があった。参加者の所属の内訳は、企業からの参加が45名(地質, 土木, 建築系が主), 博物館1名, 官公庁6名などであった。アンケートでは肯定的な意見が多かったものの、「内容が難しすぎる」、「シンポジウムのターゲットが誰なのか(行政, 教育, 市民?)があいまい」といった意見もいただいた。今後の情報発信において改善点としたい。

なお、本シンポジウム開催に当たっては、産業技術連携推進会議 知的基盤部会 地質地盤情報分科会のご協力をいただいた。

## 文 献

藤原 治・宮地良典・阪口圭一・佐藤善輝(2017) 開催報告:第25回地質調査総合センターシンポジウム 富士山5,000 mの科学—駿河湾北部の地質と自然を探る—。GSJ地質ニュース, 6, 400-401.

FUJIWARA Osamu, MIYACHI Yoshinori, SAKAGUCHI Keiichi and SATO Yoshiki (2018) Practice Report of the 26<sup>th</sup> GSJ Symposium “Science of Mt. Fuji area ranging 5,000 m in elevation – Researches on the nature of northern Suruga Bay region-”.

(受付:2017年11月16日)